

剣は知っていた 紅顔無双流 (1958)

メディア 映画

ジャンル

製作国 日本

色彩 Color

時間 104分

初公開日 1958/09/03

【解説】

柴田錬三郎の小説『剣は知っていた』を原作として「国定忠治」でもコンビを組んだ高岩肇と結束信二がシナリオを執筆、「少年三国志」二部作の内出好吉がメガホンをとった。撮影は「殿さま弥次喜多怪談道中」の坪井誠が担当。中村錦之助が正義と愛に生きる美剣士を演じた。

徳川と北条が戦に明け暮れる戦国乱世の時代。北条氏勝の玉縄城に矢文を携えた一人の男が現れた。五年前に氏勝の元を去った美貌の剣士、眉殿喬之介だ。だが氏勝は「無名組」と書かれた矢文を一笑に付し、喬之介に抜き打ちをかける。喬之介はその場を去り、倉庫に縛られていた少年を救って逃げ出した。その少年、実は家康の娘の鮎姫だったが、喬之介はまだその正体を知らない。勝機を逸した氏勝は北条を裏切り、鮎姫を人質に徳川に寝返ろうとする。そんな中、鮎姫を擁する一行が、氏家の一体に襲われてしまう。

【クレジット】

監督 内出好吉

企画 辻野公晴

小川貴也

原作 柴田錬三郎

脚本 高岩肇

結束信二

撮影 坪井誠

美術 鈴木孝俊

音楽 高橋半

出演 中村錦之助

大川恵子

中原ひとみ

花園ひろみ

浦里はるみ

月形龍之介

志村喬